

株主通信

2025年3月期(第164期) 中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで

目次

■ トップメッセージ	1
■ NSK at a glance	4
■ 事業戦略 ①産業機械事業の戦略と進捗.....	5
■ 事業戦略 ②自動車事業の戦略と進捗.....	6
■ 「変わる 超える」への挑戦	7
■ TOPICS	8
■ 内部資本の強化	9
■ 環境マネジメント	11
■ 連結財務諸表（要旨）	13
■ 会社情報／株式情報	14



株主さま向けアンケート
**株主の皆様の声を
お聞かせください**

お手数ではございますが、
こちらからご回答ください。
ご協力をお願いいたします。



証券コード：6471

日本精工株式会社



🌟 トップメッセージ



NSKは1916年に日本で初めて軸受（ベアリング）の開発・製造に成功して以来、100年以上にわたって機械の回転運動での摩擦低減と信頼性の向上を追求し、モノの動きを支える技術に磨きをかけてきました。

様々な産業や最終製品の領域でNSK製品は使われており、機械産業の発展とともに成長してきました。長年蓄積してきた技術と経験に裏打ちされたお客様からの厚い信頼こそが次の100年につながるNSKの強みです。

株主の皆様におかれましては、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役 代表執行役社長・CEO **市井 明俊**

MOTION & CONTROL™

NSK

企業理念

NSKは、MOTION & CONTROL™を通じ、円滑で安全な社会に貢献し、地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、国を越えた人と人の結びつきを強めます。

経営姿勢

- 1 世界をリードする技術力によって、顧客に積極的提案を行う。
- 2 社員一人ひとりの個性と可能性を尊重する。
- 3 柔軟で活力のある企業風土で時代を先取りする。
- 4 社員は地域に対する使命感をもとに行動する。
- 5 グローバル経営をめざす。

(NSK企業理念体系より)

● 中間配当について

当期の中間配当金は下記のとおりです。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 中間配当金 | 1株につき17円 |
| 2. 中間配当の効力発生日並びに支払開始日 | 2024年12月3日(火) |

連結決算の概要

当社グループは、2022年度から2026年度までの5カ年を『中期経営計画2026』（MTP2026）と位置づけ、「収益を伴う成長」「経営資源の強化」「ESG経営」の3つの経営課題に取り組んでいます。

当中間連結会計期間の世界経済を概観すると、各国の金融政策転換による影響や中国経済の先行き懸念、地政学リスクの高まりなど不透明感を抱えつつも、景気は持ち直しが続いています。

地域別にみると、日本は個人消費の伸び悩みや設備投資の一部に弱い動きがみられるなど景気回復のペースは鈍化しています。米国では底堅い労働市場や金融緩和が下支えし景気は緩やかに拡大が続いています。欧州はインフレが落ち着きつつあるものの、設備投資や生産が振るわず景気は低迷しています。中国では不動産市場の低迷長期化や個人消費の冷え込みが景気の下押し圧力となり減速しました。

このような経済環境において当社グループの業績は、為替が円安に推移したこともあり、非継続事業を除いた継続事業の当中間連結会計期間の売上高は3,976億43百万円(前年同期比+2.8%)となりました。営業利益は97億4百万円(前年同期比△12.8%)、税引前中間利益は77億35百万円(前年同期比△26.5%)、継続事業及び非継続事業の合算の親会社の所有者に帰属する中間利益は19億69百万円(前年同期比+198.5%)となりました。(注)2024年3月期第1四半期連結会計期間よりステアリング事業を非継続事業に分類しています。

NSKを貫く精神



現在NSKを取り巻く事業環境は急速に変化していますが、ステークホルダーの皆様と価値協創を通じて、持続可能な社会の発展に貢献し、社会から必要とされ、信頼され、選ばれ続ける企業を目指しています。NSKはさらなる成長を目指してグローバルで一体となって活動を進めていきます。

環境変化の中でビジネスポートフォリオを変える

NSKは現在、産業機械事業と自動車事業の二つのセグメントで事業展開しています。変化を取り込んで自らも変革しながら成長しなければならず、それぞれの事業内容においてもポートフォリオを変えていく必要があると考えています。自動車業界は、クルマの電動化にリソースを注力するだけでなく、従来の内燃機関（ICE）も含めた全方位戦略の方針で進めていきます。クルマの電動化に代表される自動車技術の大きな変化は、新たな技術の差別化や新製品の提案の機会になると考えています。製品や顧客のポートフォリオの変革を進めていくことで、事業の安定と収益向上を目指した活動をしていきます。

産業機械事業の事業環境としては、自動化・人工知能化に

伴って半導体製造装置やロボット市場、さらには高度化が求められる工作機械の分野で再生可能エネルギーや省エネなど産業インフラの技術革新が進んでいくことで新たな需要や技術対応による事業機会も増えていきます。精密ボールねじや精密軸受の分野や耐久性や低摩擦の技術を中心に事業を広げ、安定したアフターマーケット市場においては販売体制を強化し、ビジネス拡大を進めます。ボールねじを使ったアクチュエータなどのユニット製品、さらには状態監視や診断のコト売りなど付加価値の高い製品や事業の創出とそれに併せた人的リソースも含めた経営資源配分の見直しを検討していきます。

「Bearings & Beyond」で収益を伴う成長を実現する

既存事業におけるビジネスの拡大という視点だけでなく、技術力や製品の付加価値を向上する視点でのシナジーを重視し、電動アクチュエータなどのユニット製品やサービスを伸ばしていきます。付加価値の向上には技術や人の育成が非常に重要であり、外部の知見を活用していきます。MTP2026では人とロボットの協業、医療・バイオ分野への領域の拡大、自動化・電動化への貢献を通じた新商品による売上高で500億円の拡販達成を目標にしています。自動車の電動化と安全

性向上のニーズの中で高い需要が見込める電動油圧ブレーキシステム用ボールねじは、トップシェアの約250億円規模の受注の目途がついています。

また、MTP2026ではCMS事業の売上高を100億円規模まで伸ばしていきます。搬送アシストロボット、精密制御マニピュレータ、産業機械用アクチュエータ、食用油劣化抑制フィルターなど新商品の提案は進んでおり、お客様での試用が始まっています。

「Bearings & Beyond」に取り組み、ROE10%を目指します

＜脱炭素への貢献＞

NSK製品や技術に求められているのは摩擦を減らして再生可能エネルギー社会を支えるインフラや技術に貢献することです。

また製品やサービスに加え、事業活動のCO₂排出量削減にも当社及びグループ会社全体で取り組んでいます。工場での省エネ活動に加え再エネへの切り替えを着実に進めた結果、2024年3月期は2018年3月期比で52%まで削減しました。さらに、サプライチェーンの上流を含むScope3のCO₂排出量の削減にサプライヤーの皆様との連携した取り組みをより一層進めて、グローバル社会が目指す2050年のネットゼロに向けて貢献していきます。

＜顧客接点から生まれる新たな価値＞

お客様にNSKの研究所や工場をご訪問いただくことが非常に大切であり、多くのお客様とコミュニケーションを取ることで人が成長し、それがNSKの成長につながり、新しいモノ・アイデアを自発的に考える原動力になります。

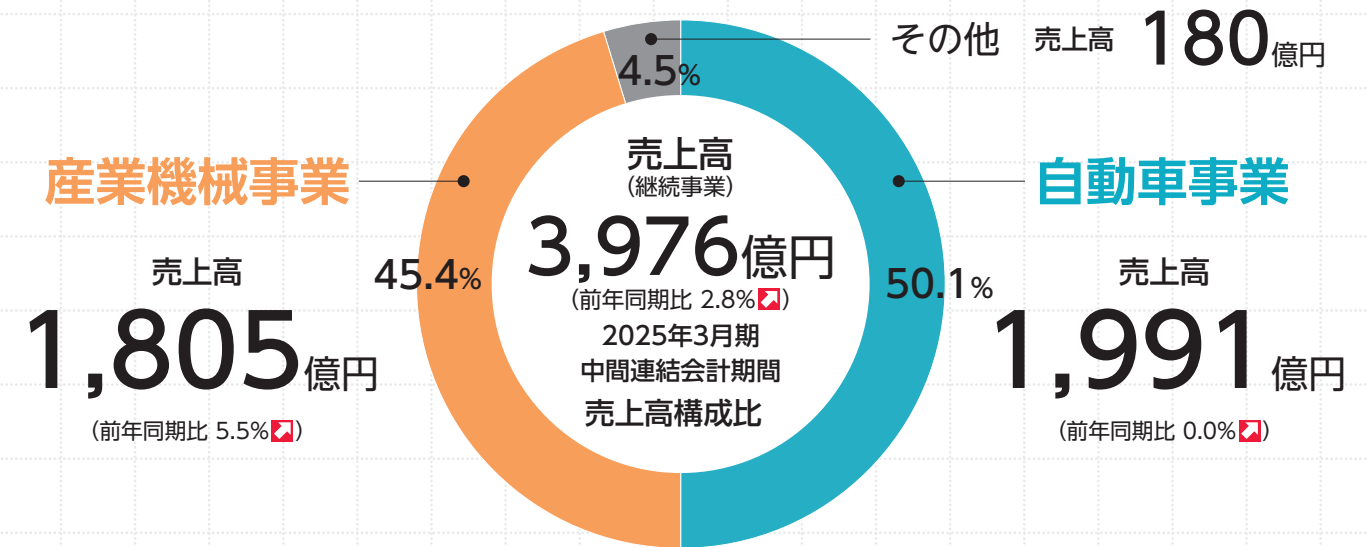
＜「変わる 超える」から生まれる新たな価値＞

未来志向の高い目標に挑戦し前進し続ける企業とその風土づくりを目指し、前例や偏見に惑わされることなく、多様性を尊重し、話を聞き答えていくことを発信しています。No.1の品質と信頼を実現し、社会に必要とされ続ける企業を目指すことにつながると考えています。それを強みに、価値を創出し続けられる企業として、時代に合わせて自らも変化し、様々な方向に枝葉を伸ばしていきたいと考えています。NSKは大きく変わる事業環境の中、「変わる 超える」で新たな価値を提供し続けることで、社会から必要とされ、信頼され、選ばれ続ける企業を目指します。



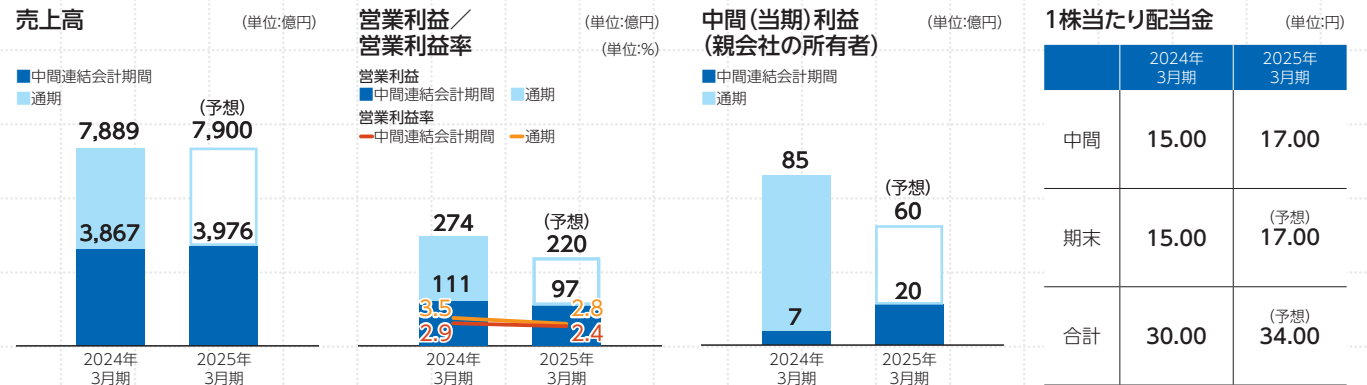
NSK at a glance

一目でわかる決算情報



2024年前半実績は為替の影響を除いた物量ベースでは減収。

- 産業機械事業：設備投資の需要が緩やかに回復したことで工作機械向けの増加等で増収。
- 自動車事業：グローバル自動車生産台数が前年同期から下振れした影響を受けて実質減収。

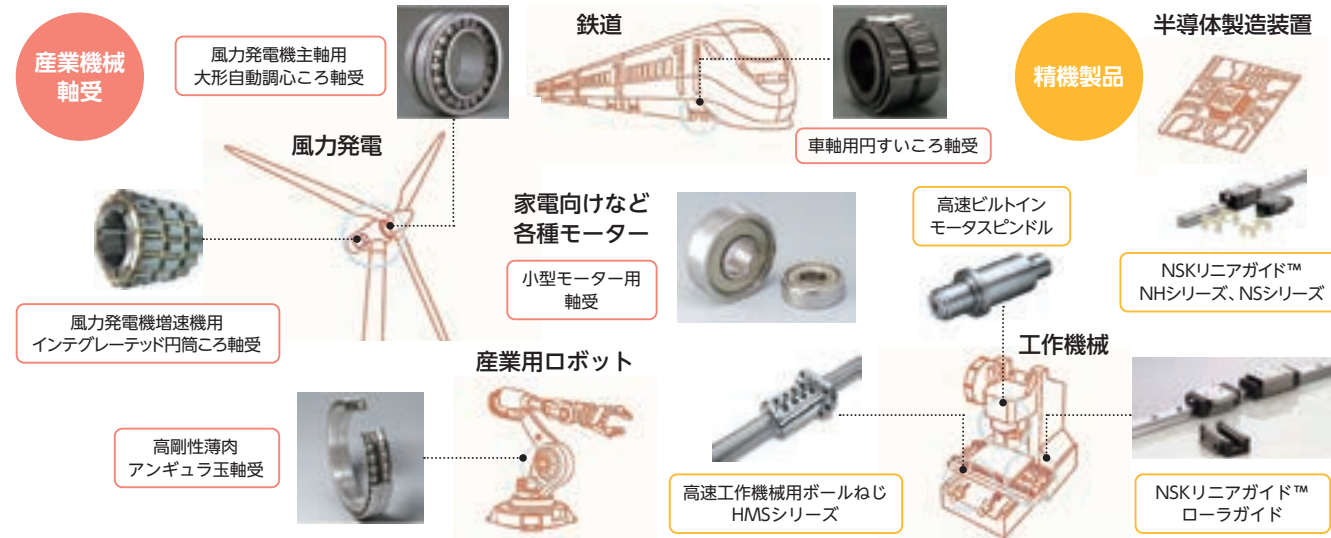


(注) 2024年3月期第1四半期連結会計期間よりステアリング事業を非継続事業に分類しており、売上高、営業利益は継続事業、中間(当期)利益は継続事業及び非継続事業の合算を表示しています。

事業戦略 ① 産業機械事業の戦略と進捗

- ✓ 産業機械軸受：様々なタイプの軸受で、あらゆる産業に対応
- ✓ 精機製品：工作機械や半導体製造装置等で活躍

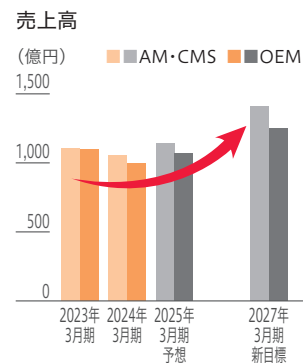
アプリケーション・製品事例



セクター別戦略

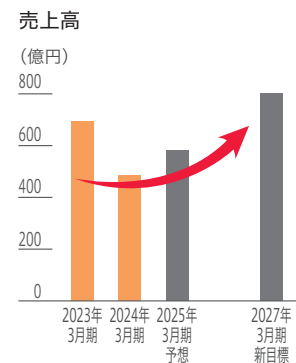
成長・拡大

産業機械軸受 一般産業機械(OEM)/アフターマーケット(AM)・コンディション・モニタリング・システム(CMS)



- **AM 欧米の拡販強化**
 - 米州 主要代理店との協業 風力補修ビジネス獲得 供給拠点の強化
 - 欧州 東欧でのビジネス拡大
- **CMS セクターの拡大**
 - 製薬／鉄鋼／製紙
 - プラグ&プレイ型製品投入
- **OEM 製品の差別化**
 - 工作／ロボット／風力／鉄道／新エネ
 - 工作機械の高度化への対応
 - 特殊環境下での長寿命化

精機製品

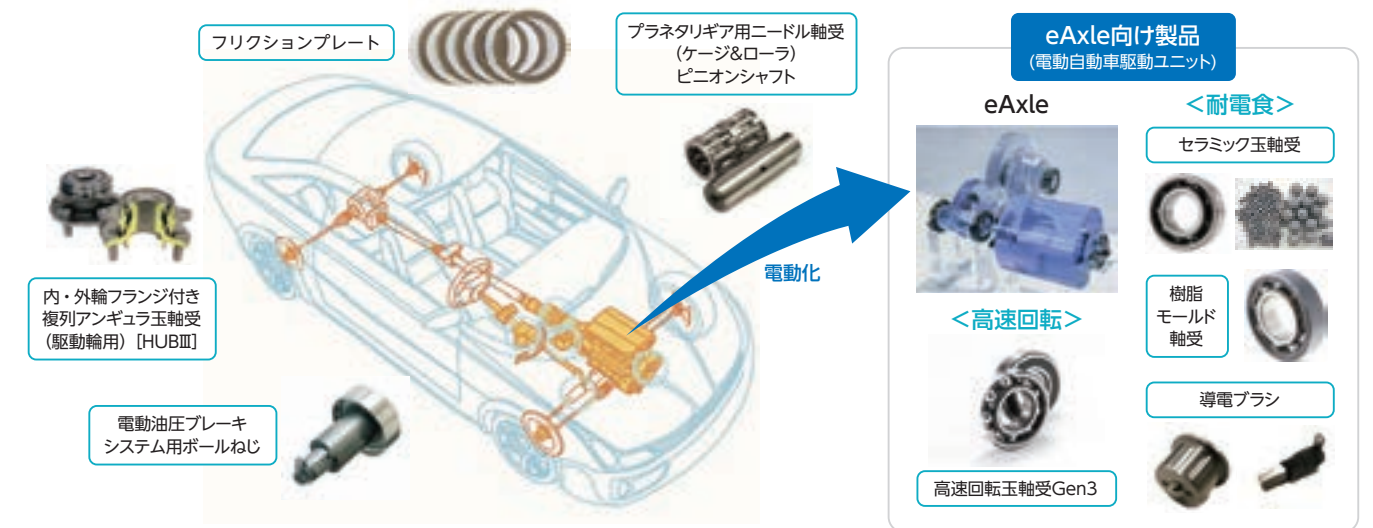


- **収益を伴う成長**
 - 成長市場での技術の差別化
 - 半導体／二次電池関連 供給能力と短納期対応
 - 市販／一般機械
 - **新商品・新領域への参入**
 - サービスロボット
 - 産機電動アクチュエータ
- アクティブキャスタ「PalGo」

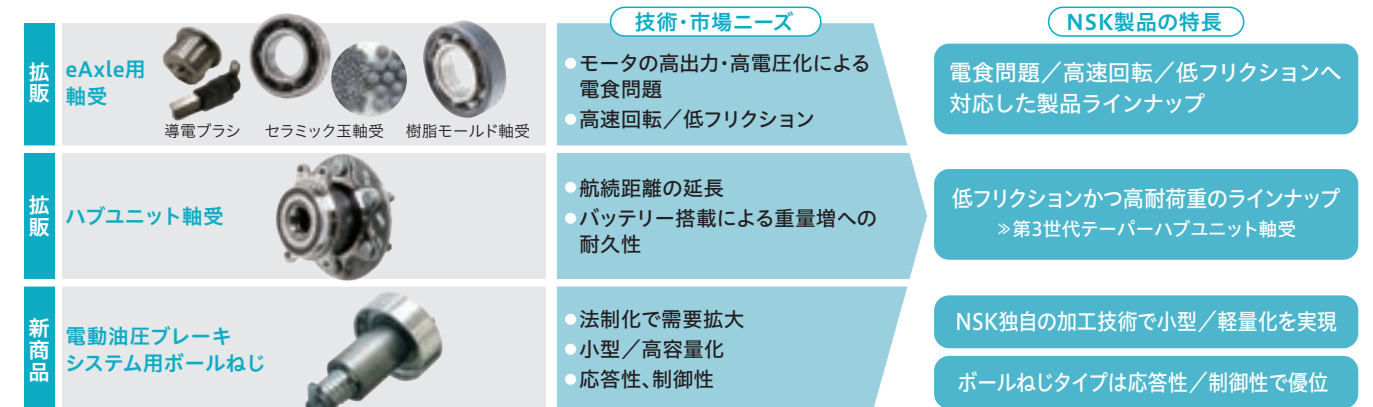
事業戦略 ② 自動車事業の戦略と進捗

- ✓ 自動車に使用される様々な種類の軸受を提供
- ✓ AT※関連製品に加え、電動油圧ブレーキシステム用ボールねじなどを提供
- ✓ 動力源の多様化や技術革新に対応した新製品を開発・提案

製品事例



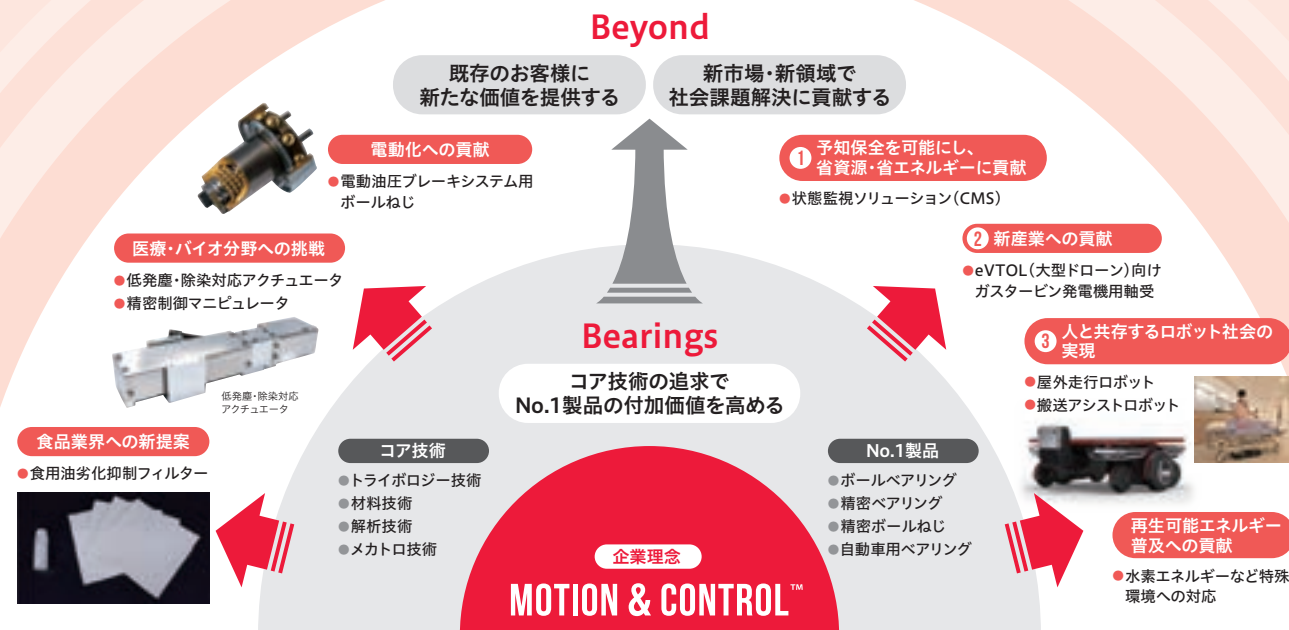
電動車市場におけるNSKの成長エンジン



※ AT:オートマチックトランスミッション

「変わる 超える」への挑戦 —Bearings & Beyondの取り組み—

「変わる 超える」に挑戦し、新たな価値を生み出し、社会から必要とされ、信頼され、選ばれ続ける企業へ



状態監視ソリューション(CMS)

CMSを活用し、製品の稼働状態を監視することで、損傷や劣化の予兆を早期に検知することができます。これにより、保全の最適化、省人化、製品品質の改善など、ものづくりの強靱化が可能になります。これまで積み上げてきたノウハウとデジタルの融合、またBrüel & Kjær Vibro (2021年に買収)の豊富な知見を掛け合わせることで、CMS事業をさらに拡大していきます。



CMS製品&サービス

eVTOL向け ガスタービン発電機用軸受

eVTOLの需要は加速度的に伸びていくとみられています。高出力・小型軽量のハイブリッド電動式の需要も高まっていくことが予想されています。特に、ガスタービン発電機はカーボンニュートラルの観点でも注目されています。NSKは、2024年3月にeVTOL向けガスタービン発電機用軸受を開発し、市場に投入しました。新たな潤滑機構を独自開発し、eVTOLの航続距離延長に貢献しました。



ガスタービン発電機を搭載した高ペイロード緊急物資輸送用ドローン
(提供:エアロディベロップジャパン株式会社)

屋外走行ロボット

搬送にかかわる3つの基本機能である屋外走行機能、安定搬送機能、自律走行機能を低床ボディにパッケージ化しています。これにより整備されていない路面でもやさしくモノを搬送できるため、サービス業をはじめとする幅広い産業の搬送業務の自動化に貢献します。搬送業務の自動化ニーズに応え、お客様のさらなる課題解決と新たな価値創出に取り組みます。



屋外走行ロボット

TOPICS

産業機械・自動車関連の展示会に出展し、NSKの取り組みや最新技術・製品を紹介。お客様から多くの反響をいただきました。また2024年“超”モノづくり部品大賞で栄えある賞をいただきました。

TOPICS 1 JIMTOF2024 第32回日本国際工作機械見本市

工作機械業界のお客様に納得・共感いただけることを目指し、NSKが追い求め続けている「モノづくり」と、地球環境への貢献をテーマに様々な製品・サービスを展示



工作機械主軸用
精密単列円筒ころ軸受
ロバストライド™

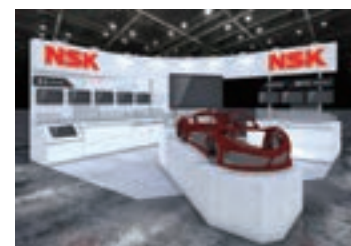


工作機械向け
低フリクションボールねじ
MT-Frix™



TOPICS 2

人とくるまのテクノロジー展2024 YOKOHAMA



カーボンニュートラルや安全で快適なモビリティ社会の実現に向けて、「走る」「曲がる」「止まる」の電動化に貢献するNSK製品を幅広く紹介



遠心式 ディスコネクトモジュール



磁歪式トルクセンサ

TOPICS 3

「2024年“超”モノづくり部品大賞」「日本力(にっぽんぶらんど)賞」受賞

医療従事者にも患者にも嬉しい

**搬送アシストロボット
MOOVO™(ムーボ)**



内部資本の強化

知的資本 ー技術力の強化ー

4 コアテクノロジープラスワン

「摩擦」を理解しコントロールする トライボロジー

トライボロジーは、運動しながら接する物質の間で起こる摩擦・摩擦を潤滑や材料表面で制御する技術です。回転・往復運動時にごく薄い油膜を介して伝わる大きな力を、独自に開発した潤滑剤や表面被膜・形状で最適にコントロールし、高速性・静音性・耐久性などの性能を極限まで高めます。



ベアリングの玉周辺の摩擦

「性能」の耐久性、信頼性の徹底追求 材料技術

製品の性能を左右する技術として、その「材料」の研究・開発に終わりはありません。材料組成や熱処理条件を最適化した金属材料や高分子材料、セラミックスを活用する技術など、機能向上・耐久性・信頼性という、常に進化を続ける要求に応えながら、コストと生産性の両立も追求しています。



セラミックスや樹脂を活用したベアリング

「4コアテクノロジー」を形にする

生産技術

4コアテクノロジーによって環境貢献、安全・安心を向上させるためには、それを形にする必要があります。また、高品質を安定して生産することが必要です。NSKは、設備の知能化やIoT活用、生産システム全体の最適化に取り組み、省スペース、省エネルギー、省人化を高レベルで行うスマートファクトリー化を実現しています。



韓国 天安工場

現象を仮想空間上に再現、性能を予測 解析技術

高い精度や耐久性の実現には、培ってきた知見はもちろん、最新のシミュレーション技術により、製品の性能をバーチャルに試験・評価することが重要です。NSKの高度な解析技術は、実物での試験が難しい極限状況での性能評価を可能とし、最適設計や製品開発のスピードアップを実現しています。



ベアリングのグリース流動解析の例

技術が「人」をサポートし、便利で安全で快適な未来を

メカトロ技術

メカトロ技術は、ベアリングやボールねじ、リニアガイドなどの機械要素技術と、モーター、センサー、コンピューターを組み合わせ、メカの良さをコンピューター制御でより引き出す技術です。自動車やバイオ医療をはじめとした様々な産業機械に新たな機能・性能を付加するとともに、信頼性の向上、そして暮らしの利便性・安全性に貢献しています。



アクティブキャスタ

NSKの強みをオープンイノベーションでさらに強化

NSKはトライボロジーと、デジタル技術の融合による価値創出で持続可能な社会の発展に貢献し、社会から必要とされ、信頼される企業を目指すことを重要課題としており、革新的な研究開発を継続的に行うために2023年12月に、NSKトライボロジー協働研究拠点を東京工業大学すずかけ台キャンパスに設置しました。

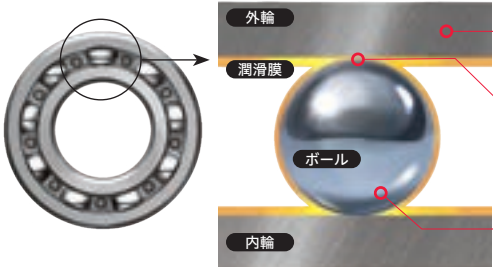


NSKトライボロジー協働研究拠点

材料、潤滑、力学の研究3分野を総合的に研究することで、従来の研究をより深化させ、より高機能なベアリングや直動製品の創出につながる画期的なソリューションを生み出していきます。

また、本協働研究拠点を活用し、NSK及び東京工業大学の研究者が相互交流を緊密に行い、高度な基礎研究を推進できる人材の育成にも継続的に取り組んでいきます。

トライボロジー技術の3要素：材料、潤滑、力学



材料
用途ごとに適した材料組織を明らかにして、安心して長く使える製品の実現につながる。

潤滑
ベアリングの回転による摩擦面を潤滑剤などによって滑りやすくし、摩擦を低減させる。

力学
ベアリングの回転時に接触面に発生する複数の力の状況を把握することで、ベアリングの最適な設計・開発を実現させる。

製造資本

MTP2026では、「経営資源の強化」として、デジタルの力を活用し、事業変革を起こし続ける基盤をつくります。

生産においては、生産の超安定化、グローバル生産の強化、新商品の生産対応の施策を進め、特にデジタル技術を活用し、生産の最適化を目指します。

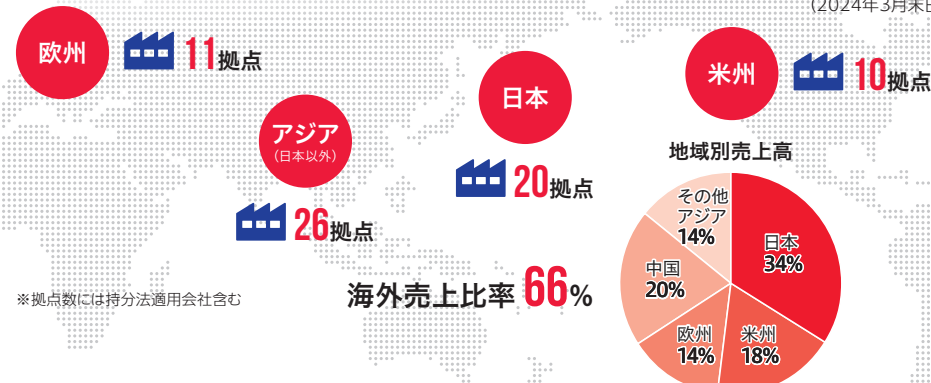
人的資本

MTP2026の経営課題「経営資源の強化」の重要な施策の一つが、「人的資本の価値最大化」です。経営戦略を、確実かつタイムリーに実行していくためには明確なKPIを伴った人材戦略との連動が不可欠です。

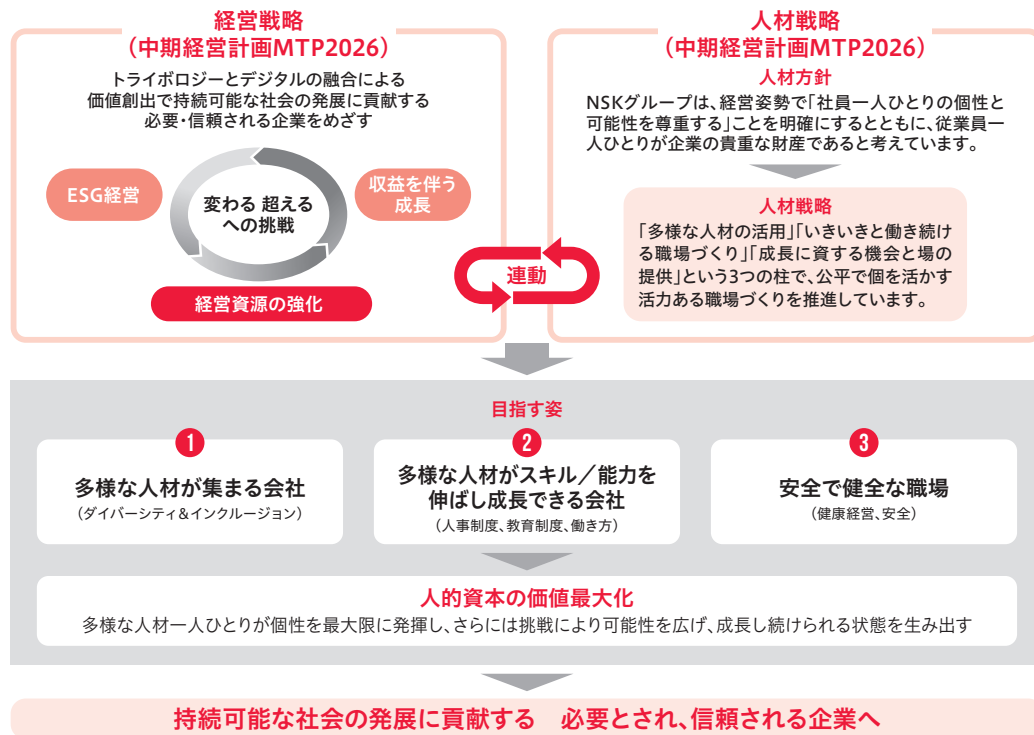
NSKグループでは、3つの目指す姿の実現に向けて様々な施策を推進し、「人的資本の価値最大化」、即ち、多様な人材一人ひとりが個性を最大限に発揮し、さらには挑戦することで可能性を広げ、成長し続けられることを目指しています。

グローバルに生産拠点 67 拠点、200 以上の事業拠点を展開

(2024年3月末日時点)



NSKの目指す人的資本経営



事業活動の環境負荷最小化への取り組み

NSKは、製造工程でのCO₂排出量を削減する上で、エネルギー使用量の削減が最も優先すべき課題と考えています。ムダを減らす地道な省エネ活動をグローバルで推進するとともに、コア技術を駆使した革新的な生産技術の開発を進めています。また、環境負荷を抑えたエネルギー調達のため再生可能エネルギーも活用し、将来的には、より一層環境負荷を抑えた素材及びエネルギーへの転換も視野に入れています。

「つくる」事業活動のCO₂排出削減

(Scope1+2 2018年3月期比)

2024年3月期 **-52%**削減

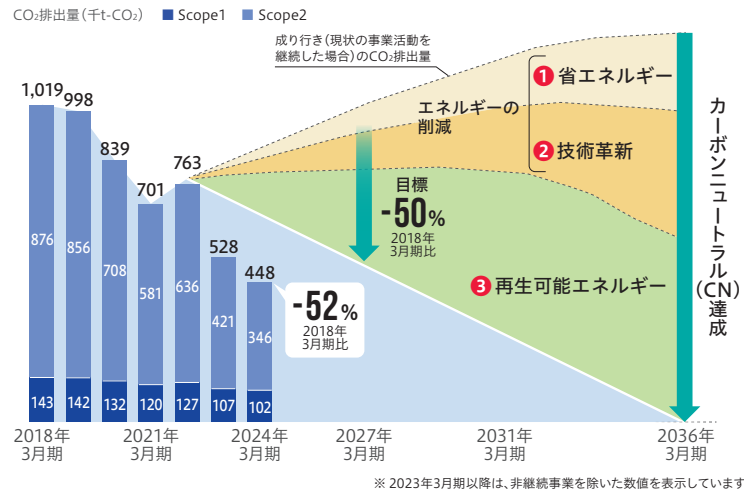
(2027年3月期目標 -50%)

「つくる」段階の取り組み - 自社のCO₂排出量削減 -



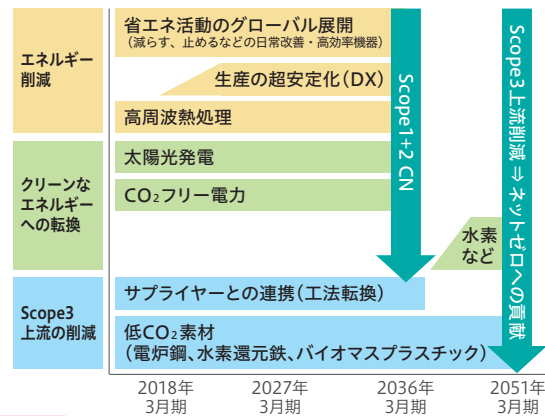
2036年3月期のScope1+2のカーボンニュートラル達成に向けて

- ①省エネルギー、②技術革新、③再生可能エネルギーの3つの柱で取り組みを進めています。
- 2036年3月期にScope1+2でカーボンニュートラルの達成を目指し、その過程で2027年3月期にScope1+2のCO₂排出量を2018年3月期比50%削減することを目指します。
 - 2024年3月期のCO₂排出量は2018年3月期比52%を達成し、計画を上回るペースで推進しています。



2050年のCO₂排出ネットゼロ社会の実現に向けて

- 生産活動における省エネルギーや技術革新の取り組みをグループ全体に展開し、エネルギー使用の効率化を進めます。
- 水素などのクリーンなエネルギーの活用を拡大します。
- サプライヤーと連携を深め、NSK及びサプライヤーの工法を転換し、CO₂排出量を減らします。また、低CO₂素材やバイオマスプラスチックの採用を拡大していきます。



用語解説

- Scope1、2、3
- モノがつくられ廃棄されるまでのサプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の分類方法。
- Scope1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
- Scope2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- Scope3 Scope1、Scope2以外の間接排出

製品の環境貢献最大化への取り組み

世界中の多くの自動車や産業機械が長期間にわたり稼働することで膨大なエネルギーを消費していますが、NSK製品は小型・軽量化や低トルク化などにより、そのエネルギー消費を極限まで減らすことを目指しています。また、風車などの再生可能エネルギー設備にも使用され、環境に貢献しています。一方で、NSKの主要な材料である鉄の製造や加工には多くの資源を必要とするため、製品の寿命延長や再生利用を通じて廃棄物の削減と資源の有効活用を推進しています。これらの取り組みにより、NSKは製品のライフサイクル全体でのCO₂排出削減に取り組んでいます。

「つかう」商品によるCO₂排出削減貢献量

2024年3月期 **2,435**千t

(2027年3月期目標 3,000千t)

「つかう」段階の取り組み - お客様のCO₂排出量削減に貢献 -



環境貢献型製品の考え方

企業理念に定める「円滑で安全な社会への貢献」と「地球環境の保全」を目指し、「環境貢献型製品開発の基本方針」に沿って環境貢献型の製品や技術の開発を進めています。

- 環境貢献型製品開発の基本方針
1. お客様での使用時に、省エネルギー・省資源に寄与する製品づくり
 2. 製造時のエネルギー・資源使用量を極力低減した製品づくり
 3. 環境負荷物質の使用ゼロを目指した製品づくり
 4. 低振動、低騒音、低発塵など人にやさしい製品づくり

- 「円滑で安全な社会への貢献」と「地球環境の保全」を目指した製品づくり



環境貢献型製品

直接貢献の製品例

※1 NSK製品単体の性能が直接的にCO₂排出削減に貢献するもの

自動車ホイール用
低フリクション
第3世代テーパー
ハブユニット軸受

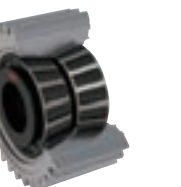


間接貢献の製品例

※2 NSK製品が脱炭素に関連したお客様の装置や設備に組み込まれることにより、または製品修復などのサービスにより、間接的にCO₂排出削減に貢献するもの

増速機

風力発電機用
次世代高負荷容量
円すいころ軸受



● 連結財務諸表（要旨）

中間連結財政状態計算書

単位：百万円

科 目	2025年3月期 中間 連結会計期間 (2024年9月30日)	2024年3月期 連結会計年度 (2024年3月31日)
資産		
流動資産	581,532	636,623
現金及び現金同等物	142,071	150,583
売上債権及びその他の債権	204,828	220,248
棚卸資産	184,458	185,886
その他の流動資産	42,961	68,261
売却目的保有に分類される 処分グループに係る資産	7,212	11,643
非流動資産	638,977	661,454
有形固定資産	345,623	364,947
のれん及び無形資産	58,744	56,548
その他の非流動資産	234,608	239,957
資産合計	1,220,509	1,298,077
負債		
流動負債	284,659	359,145
仕入債務及びその他の債務	117,850	140,451
その他の金融負債	107,389	128,433
その他の流動負債	51,841	78,889
売却目的保有に分類される 処分グループに係る負債	7,578	11,370
非流動負債	275,790	260,977
金融負債	233,276	214,864
退職給付に係る負債	13,464	13,582
その他の非流動負債	29,049	32,530
負債合計	560,449	620,123
資本		
資本金	67,176	67,176
資本剰余金	78,189	77,897
利益剰余金	370,113	375,402
自己株式	△10,317	△10,422
その他の資本の構成要素	137,479	150,270
売却目的保有に分類される処分グループ に係るその他の資本の構成要素	—	△345
親会社の所有者に帰属する持分合計	642,641	659,979
非支配持分	17,418	17,975
資本合計	660,060	677,954
負債及び資本合計	1,220,509	1,298,077

※中間連結財務諸表は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

中間連結損益計算書

単位：百万円

科 目	2025年3月期 中間 連結会計期間 (2024年4月 1日 ～2024年9月30日)	2024年3月期 中間 連結会計期間 (2023年4月 1日 ～2023年9月30日)
継続事業		
売上高	397,643	386,691
売上原価	311,937	306,669
売上総利益	85,706	80,021
販売費及び一般管理費	72,672	69,932
持分法による投資利益(△は損失)	△157	1,349
その他の営業費用	3,172	315
営業利益	9,704	11,123
金融収益	1,445	1,725
金融費用	3,413	2,320
税引前中間利益	7,735	10,528
法人所得税費用	3,683	4,517
継続事業からの中間利益	4,051	6,011
非継続事業		
非継続事業からの中間利益(△は損失)	△1,892	△4,953
継続事業＋非継続事業		
中間利益	2,159	1,058
(中間利益の帰属)		
親会社の所有者	1,969	659
非支配持分	189	398

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科 目	2025年3月期 中間 連結会計期間 (2024年4月 1日 ～2024年9月30日)	2024年3月期 中間 連結会計期間 (2023年4月 1日 ～2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,478	73,713
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,578	△77,821
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,448	24,597
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,340	5,332
現金及び現金同等物の増減額	△7,889	25,821
現金及び現金同等物の期首残高	150,583	160,109
売却目的保有に分類される処分グループに係る 資産に含まれる現金及び現金同等物の増減額	△621	△185
現金及び現金同等物の中間期末残高	142,071	185,744

● 会社情報／株式情報 (2024年9月30日現在)

会社概要

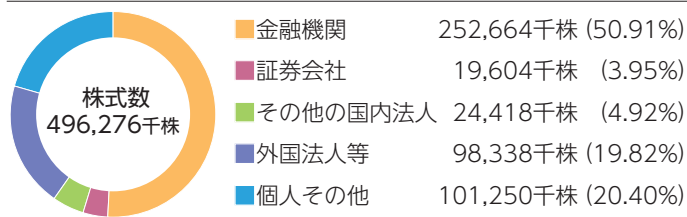
会社名	日本精工株式会社 (NSK Ltd.)
本社	東京都品川区大崎一丁目6番3号
設立	1916年 (大正5年) 11月8日
資本金	672億円
従業員数	7,634名 (NSKグループ 24,783名)
主な事業内容	産業機械軸受、精密機器関連製品、 自動車軸受、自動車部品の製造及び販売

役員

※ 社外取締役

取締役 代表執行役社長・CEO	市井 明俊	執行役常務	武村 浩道
取締役 代表執行役専務・CFO	鈴木 啓太	執行役常務	早田 龍史
取締役	野上 宰門	執行役常務	尾崎美千生
取締役	山名 賢一	執行役常務	岡 秀典
取締役*	小原 好一	執行役常務	宮田 慎司
取締役*	津田 純嗣	執行役常務	後藤 直樹
取締役*	泉本小夜子	執行役常務	村田 達紀
取締役*	藤塚 主夫	執行役常務	村山 玄
取締役*	林 信秀	執行役常務	早速 秀明
執行役専務	吉清 知之	執行役常務	木原 武志
執行役専務	御地合英季	執行役	村田 珠美
執行役専務	近江 勇人	執行役	ウルリッヒ・ナス
執行役常務	明石 邦彦	執行役	フライアン・パソズ
執行役常務	郁 国平		

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	〒100－8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168－8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120－288－324

株式の状況

発行可能株式総数	1,700,000,000株
発行済株式総数	496,276,531株 (自己株式 3,723,469株を除く)
株主数	72,702名

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	79,205	15.96
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	33,963	6.84
明治安田生命保険相互会社	27,626	5.56
富国生命保険相互会社	22,400	4.51
日本生命保険相互会社	22,034	4.43
株式会社みずほ銀行	18,211	3.66
日本精工取引先持株会	10,621	2.14
日本精工社員持株会	9,068	1.82
J P モルガン証券株式会社	7,514	1.51
株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	6,973	1.40

(注) 持株比率は、自己株式 (3,723千株) を控除して計算しています。

【こどもの未来応援基金】

2024年3月期(第163期)定時株主総会におけるインターネットによる議決権行使により削減された郵送費を、「こどもの未来応援基金」に寄付しました。今年度寄付した123万円は学びの支援や衣食住など生活の支援、居場所の提供や相談支援に充てられます。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

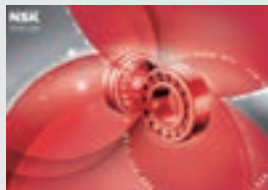
* 未受領の配当金については、みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店でお支払いします。



投資家情報サイトのご案内

社長メッセージや決算説明資料、財務・業績情報、株式情報などを掲載しています。
また、株主の皆様により深くNSKのことをご理解いただくために開示情報の内容充実に努めています。

➔ <https://www.nsk.com/jp-ja/company/investors/>



統合報告書「NSKレポート2024」

2024年9月に統合報告書「NSKレポート2024」を発行しました。
本統合報告書は、NSKが社会への貢献と企業の発展を両立していく価値協創のストーリーについて、株主や投資家の皆様をはじめとする幅広いステークホルダーの皆様理解を深めていただくことを主眼として毎年制作しているレポートです。

➔ <https://www.nsk.com/jp-ja/company/investors/ir-reports/>



企業広告「__ with Motion & Control」第五弾のご案内

「あたらしい動きをつくる。」企業であることを表現した広告を展開



2024年11月に、当社の企業広告「__ with Motion & Control」Swinging篇を公開しました。
シリーズ5作目となるSwinging篇では、NSKの技術を使った機構がシンプルな振り子運動を複雑な軌道へと変え、その優雅で精緻な動きを視聴者へと伝えます。誰も想像できなかった「あたらしい動き」を届けるというメッセージを表現しました。
動画はスペシャルサイトからぜひご覧ください。

➔ <https://www.nsk.com/jp-ja/company/motion-and-control/>

スペシャルサイトは
こちらから↓



外部機関からの評価(SRI/ESG)

財務面だけではなく、環境・社会面での高い評価を併せ持つ企業は、長期的に持続可能な成長を期待される企業と認知され、SRI(Socially Responsible Investment/社会的責任投資)の対象としてだけではなく、幅広い投資家からますます重要視されています。NSKは、世界的にその信頼性が認められた下記の代表的なSRI/ESGインデックスに組み入れられています。(2024年7月現在)

Member of Dow Jones Sustainability Indices Powering the SDG Index 2024	➔ https://www.spglobal.com/esg/csa/indices/djsi-index-family
※1 FTSE4Good	➔ https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good
※2 FTSE Blossom Japan Index	➔ https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan
※3 FTSE Blossom Japan Sector Relative Index	➔ https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan

※4 2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクター・リーダーズ掲載	➔ https://www.msci.com/our-solutions/sustainable-investing
	➔ https://www.issgovernance.com/esg/ratings/
	➔ https://www.sompo-am.co.jp

※1: FTSE Russell (the trading name of FTSE International Limited and Frank Russell Company) confirms that NSK has been independently assessed according to the FTSE4Good criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE4Good Index Series. Created by the global index provider FTSE Russell, the FTSE4Good Index Series is designed to measure the performance of companies demonstrating strong Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE4Good indices are used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

※2: FTSE Russell (FTSE International Limited and Frank Russell Company)の登録商標はここにNSKが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index組み入りの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融機関の作成・評価に広く利用されます。

※3: FTSE Russell (FTSE International Limited and Frank Russell Company)の登録商標はここにNSKが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入りの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融機関の作成・評価に広く利用されます。

※4: THE INCLUSION OF NSK IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF NSK BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



日本精工株式会社
ホームページアドレス
➔ <https://www.nsk.com/jp-ja/>

